

季節保育所の問題

倉 橋 惣 三

幼児愛護の施設の中で、その必要の最も明らかであり、又その普及の最も著しきもの季節保育所の如きものはない。その普及の著しいこと自身がその必要の大なるを示して居るに他ならないのであつて、昭和十一年度社會局調査によれば一萬四千五百五十八になつて居る。實に多數云ふべきである。しかも昭和十三年に於ては三萬三千六百餘ヶ所であつてその年々増加率の大なるもまた著しい。この普及殊に増加率の多い云ふことは、從來設置されてゐなかつた所に一度新に設置されるれば、必ずその次の年度に於て繼續せられるのであり、且又之が誘ひになつて村内の他の部落、更に近村にまで及ぶことの結果によるのである。今にして思へば、農繁期託児所の名に於てその必要を唱導せられた初期に於ては些か特別の施設の如き感があつてその必要の所以が理論的に云はれたりして居つたのであるが、今日に於てはもうすでに農繁期に於ける社會常識となり、理想をもつてその必要を説くことなどは無用なくらゐになつてゐるのである。また初期に於ては一般兒童保護事業と同じく特志性が多かつた爲に、その設置に於ても私設のものが多かつた。むしろそれが農繁期託児所の主體をなすものさへ考へられて居つたのである。それが今日に於ては、もよより私設の力に俟つことも多いのであり、云ふまでもなく結構なのであるが、社會的施設としての本質に於ては、公設が主體を考へらるゝに至つて居る。かりに地方廳が自ら直接に之を設けないにしても、之を促進し奨励してゆくことは地方廳當然の任務となり來つて居る。私設公設を比較して論ずるわけではないが、社會的特志事業が、社會的一般事業に變へた云ふ意味に於て之を擧げるのである。即ち季節託児所はその名の示す如く、季節々々に於て行はれる隨機施設ではあるけれども、その設置は常設的であ

る云つていゝ。即ち從來常設保育所季節保育所と云ふ名まで區別したのを、通年保育施設季節保育施設と名づけてもいゝぐらゐである。

併しながら、一つの私設保育所に於ける受託幼児數はこの施設の本質から云つて少數なるを常とするのであつて、従つて季節保育所に於て保育せらるゝ幼児の數に於ては必ずしも未だ多しと云へない。同じく昭和十一年度調査、六十一萬七千四百餘名となつてゐる。これは全國の幼児數から都市幼児數を除いたものゝ數に比べても決してゆきわたつて居る數と云へない。即ち季節保育所は地方的には相當なる分布状態を示してゐる云へるけれども、實際に保育してゐる幼児數としては未だ微々たるもの云はなければならぬ。殊に地方分布の状态を見るに、例へば愛知縣であるとか京都府であるとか兵庫縣であるとか、その數千を超えて居る地方に比べて、百にも達せざる地方が尠しと云ふ筈のものではないが、一縣内に百以下で足りるものは誰も考へるこゝが出来ない。しかもさういふ少い地方が幼児期保護の必要の少い地方であるならばかりにともかくとして、むしろその反對であるが如き場合も見られるとすれば、分布の不均等は問題とせざるを得ない。これは地方の人々がこゝうした施設に關する理解に乏しい爲であるか、府縣當事者が、普及を圖るの熱意に於て足りない爲である。何れにせよこのまゝにあり得べきこゝは言へない。即ち季節保育所は他の幼児愛護施設に比べて普及の速やかなるに安心してだけ居てはならない。むしろこれから本格的に全部落に従つて日本農村幼児全體に向かつて充分なる普及を計られなければならない。言ひかへれば、こゝまで來たのがこの事業の理解第一期であつて、これからこそ本當に普及期に入るさしななければならぬ。この施設ほゞ普及を本質的急務とするものはないからである。

○
以上は單に普及に就て考へたのであるが、その内容に於ても亦殘されたる問題が多いのではあるまいか、我々が十數年前に於てこの施設の唱導をなした頃に於ては、兎にも角にも農繁期に於ける幼児の生活障得を防止しやうと云ふのであつた。従つてその最少限度の設備をもつてこれに望んだのであつた。極言すれば、設備についても殆んど規定する所なく、

保育方法についても何等要求する所なく、農繁期中云はゞ幼児を預かり置けばいゝ云ふくらるのこゝで説き來つた。之は今日に於てもかくの如き臨急施設をして變りはないところでもある。設備方法の理想を主として、その爲に普及を妨ぐる如きこゝは本旨に反するこゝ甚だしいのである。實際的にも今日これより新に作られやうとする季節保育所に於て、設備方法の如何よりは、施置せらるゝこゝに於て先づよろこびをしなければならぬところが多いであらう。併しながら季節保育所そのものゝ經驗をその間に十分に意識的ならざるも行はれ來つた研究の結果は、簡單を旨とし簡易を本質とするこゝ云ふ中に於ても、それだけの進歩は行はれてゐなければならぬ筈である。簡單でもいゝ。簡易でもいゝ。併し農繁期託児所の方法を設備はいつまでも保育的に最低標準のみでいゝ云ふべきものではあるまい。

この點について、先づ第一に保姆の養成を云ふか、少くも臨時講習の如き方法による養成が必要であることは云ふまでもない。幼稚園、常設保育所の如き充分の資格を熟練を有する人々のみによつて行はうとすることは望んで得られないところである。素人でいゝのであり、女子青年團の娘さん達でいゝのであり、母としての經驗を持つ婦人會の特志婦人で大いにいゝのであるが、その人々が少しく季節保育所の理解を深め幼児生活の知識を持ち、保育方法上の心得を與へられたとするならば、その毎日の保育状態がよく整頓せる幼稚園に於けるが如きでないとしても、効果を擧ぐる點に於て極めて望ましきものが不知不識に行はれるであらうこゝを疑はない。今日各地方に於て地方廳が主體となつてこのこゝを行ふてゐるところも年々増加しつゝあるやうであるが、未だ決して充分を云へないと思ふ。殊にそうした試みの實際がまた極めて手軽なるやり方であつて、殆んどその集る人々に講習を受けたと云ふ感じ以上の實質を與へ難い場合が稀でない。殊にその講習内容が實際的であることは望ましいが、屢々あまりに實際的のみであつて、短時間の間に幾つかの唱歌、遊戲を教へらるゝと云ふやうなこゝで終るものが少くない。もゝよりそうした保育實際資料の傳受も入要なこゝに相違ないのであるが、もう少し幼児保育の根本には入つて、第一には幼児期衛生に關する知識を、多少の實際技能或はまた幼児の心理的理解に基く正しき保育訓練の觀念、是等のものが與へられなければならないであらう。元來季節託児所は或は一週間或は長くて三四週間の短期なるものであつて、その間に於ける所謂保育效果に於ては實のこゝろそう多くを求め得られないもの

である。それよりも一面手不足なる家庭から子供を預る云ふこと、共にこの機會に於て日本の幼児の多數に對する身體的、精神的診斷を行ふのである云ふことは考へていゝことであるまいかと思ふ。健康乃至教育的相談事業はこれを設置するに於て隨意に來るものを迎へる云ふことでもある。或は強制的健康調査云ふ形に於て極めて多數のものを、次から次まで極めて短時間に於て調査してゆく云ふ方法もある。これ等に對して農繁期託兒所は保育としては數週間の短いものに過ぎないけれども、こうした相談事業の機會としては最も適切にしてまた恐らく充分なる機會であると思ふ。したがつて理想的に云ふならば、この農繁期託兒所に幼児が集つてゐる機會を捕へて府縣の指導員が之を充分に調査検査するやうにあり度いと思ふのである。しかもそれは本日直ちに實現しにくいことであるのは明らかなきことである。これに代るにその専門指導員の如く充分なる知識技能を備へてゐるものでないものであるけれども、農繁期託兒所に働いてくれる人々が、豫め打合はされた方法によつて幼児達の健康と性僻傾向とについて何等かの調査をなす云ふことが出來たならば、いわゆる單なる子供預りの域から初めて一歩進んだ所に至り得るであらう。

第二には設備と保育方法の問題であるが、これは人その人を充實するに比してそんなに必須ではないかも知れない。寺院の庫裡、學校の空教室、森の中のテント、濱邊の砂の上、何れも結構であらう。併し季節託兒所が前に述べた如く通年的ではないが、その村その村の常設施設となるならば、一回々々は臨時的な性質のものであらうが、その常設性に於て年々充實されていくべきであらう。おかしな例の様であるが、渡り鳥が軒に來て巢を作るは一種の季節施設である。通年的に營まれる巢ではないが、併し季節毎に時をたがへず歸り來るものを迎へてこれに相當の力をかけてやるのは農家の常である。去年の初夏、その秋、今年の田植又蒔入れ、これは一回々々として考へる他に、一つの決まつた仕事であり、吾々はこのきまつた云ふところに對しても少し設備上の努力が加へられていゝものではないかと思ふ。勿論、繰り返し云ふ如く、最低標準であつても無きにまさるものであることは常に言ふところであるが、かくの如き年を重ねて行はれる施設として自らなる充實は當然あつていゝ筈である。これに對してはこれだけの設備がなければならぬ云ふことは決して云はぬ。それよりも年々の施設に對して一貫して心配し、一貫して考慮するところの中心人物があつてくれるならば、そ

こから自ら漸次的なる充實が生まれ来るであらう。

○
こゝにいふ事を云ふのも、季節託児所の普及發達の現状に於て謂はゞ一段の希望を云つて居るのである。こゝろで、特に本誌讀者諸君に向かつて云ひ度いことは、こゝした保育事業はそれが幼稚園令に従つて行はるゝ幼稚園に比して極めていはゞ偏則的なる如きものである。併しそれは形の上仕方の上のこゝであつて、幼児の保育の本旨に於てはもゞより何等變るゝところはないのである。また幼稚園を日々行つてゆく心持を、農繁期を目の前にして急いで季節託児所を開設する心持は自ら違ふところがあるであらう。一は専ら保育を念とし、一はさりあへずの急を救はうとする。併しながらその急を救はうとして設けられたる季節保育所の中に於ても幼児を以て取り扱はれてゆく本當の意義は保育の本旨に他ならぬ。茲に於て日本全體の幼児の上に加へらるゝ幸福の爲に、季節保育所は幼稚園教育者の最も關心を持つべき筈のものであると思ふ。社會的要求も云ふ立場からは社會國家の最大關心事であるが、幼児保育も云ふ意味に於ては幼稚園關係者の最大關心事たらざるを得ない。少しく言ひ方が言葉を弄するが如きであるけれども、若し日本の全村全部落至る所に諸君の持てるが如き幼稚園が設置されて居つて、あらゆる幼児が諸君の幼児の如く日々に通年的に保育せられて居るさしたならば、特に農繁期に當つてあはたゞしう急にかけつけねばならぬも云ふこともないわけである。私は社會理想として季節保育所の必要をその必要なる理由に於て考へるゝ同時に、農繁期に於て特にかくの如き施設の必要なる所以は常設的保育施設の缺乏に他ならないと考へる。